



シーニック的
アウトドアな人たちが Vol.004

弟子屈町 地域おこし協力隊
小林 由紀子さん

弟子屈をNZのように

『世界中の旅人が訪れる
まちづくりを目指して』

全国で約3000人が活躍している地域おこし協力隊。ここ弟子屈にも2015年より現在4名が地域を盛り上げるべく活動している。

その中の一人、小林由紀子さんはかつて東京で暮らしていた。東京の人の多さとうんざりしていた小林さんは北海道の移住ツアーに参加した。西日本は開発され尽くされた感を抱いており、元々本州からの移住者が多い北海道に興味もあったが、なにより都会にはない「ウェルカム感」に魅かれたという。ツアーから戻ると北海道の地域おこし協力隊に応募して今日に至っている。



ご主人とともに弟子屈に永住を決意した一番の大きな理由は「大好きなニュージーランドとよく似ているから」だという。かつて小林さんは、オーストラリアやニュージーランドをバックパッカーとして約8か月間旅をしたことがあるという。現地を感じた人々のさりげない優しさ、他国から来た人に対して「もすんなり」と日常に受け入れてくれる懐の広さ、それらを弟子屈でも感じられたという。

そうした経験から弟子屈の町にもっと海外の観光客に来てもらいたいと考えている小林さん。まずは町を紹介するパンフレットをもっと外国の方々に分かりやすくするため、ネイティブの友人や町のALT講師の協力を仰ぎながら、再編集をしている。

それに伴い、町の各所にある看板などの外国語表記も多言語化や統一を図りたい



▲ドイツから訪ねて来てくれた友人と摩周岳トレイルを満喫。和琴半島の散策路など、1週間かけて弟子屈ライフを体験してもらいました。

いとも。もちろん弟子屈の魅力を伝えるために町のホームページや協力隊のフェイスブックなど、インターネットを活用した広報活動も行っている。「弟子屈はアジア圏のお客様は割と多いのですが、欧米圏にはあまり知られていないらしくそれほど多くないんですよ」と小林さん。将来は弟子屈町に長期滞在を促すトレイルを整備したいと語る。弟子屈の町にアウトドア好きな海外のバックパッカーたちが集まる日もそう遠くないかもしれない。

(文：櫻澤浩幸)



▲弟子屈町へ視察に訪れたイギリスの旅行会社の方と川湯エコミュージアムセンターの前で。雄大な自然と温泉に感激されていました。

弟子屈町
地域おこし協力隊

住所 〒088-3211

川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号

TEL 015-482-2191 (弟子屈町役場)

[FACE BOOK]

<https://www.facebook.com/teshikagachikiokoshi/?ref=ts>